

2月の例会の報告(1983.2.12 東大に2)

P. Tilley 教授 (オーストラリア・シドニー大) から、オーストラリア東南部の Snowy Mts. の氷河地形・周氷河地形についての講演があった。Snowy Mts. は北西側に急斜面をもつ傾動地塊で、南東側はゆるやかな高原状を呈する。最高点はコシアスコ山 (Mt. Kosciuszko, 2215m)。氷河地形は主稜線部に発達するいくつかのカルとモレーンからなる (Fig. 1)。カルの発達方向は南および東向きが卓越し、地質構造との対応が顕著である。カル地形の特徴としては深い rock basin の形成があげられ、カル底湖の発達が良い。主稜線部周辺にこうしたかなり顕著な氷河地形が存在するにもかかわらず、氷河の拡大範囲は小さく、谷氷河や高原氷河は形成されなかった。高原氷河の存在を否定するものとして、見事なトPの写真が示された。この講演に対して、トPの分布地域は限られていいるから必ずしも高原氷河の存在を否定するものではないこと、氷期の卓越風向 (現在は南西～西) などについての質疑があった。なお、この地域は Cosin ほか (1964) によるニヴェーションの実験的研究のフィールドであったところであるが、実はカル壁のガリーをうめるごく小さなスローピッドであることに驚かされた。

(参考文献)

Cosin et al. (1964), J. Glaciol., 5, 219-228.

Cosin, Jennings (1973). Arc. Alp. Res., 5, 121-126.

GLACIAL AND PERIGLACIAL FEATURES

Scale 1:100,000



2 1 0 2 km

Contour interval:
200 metres

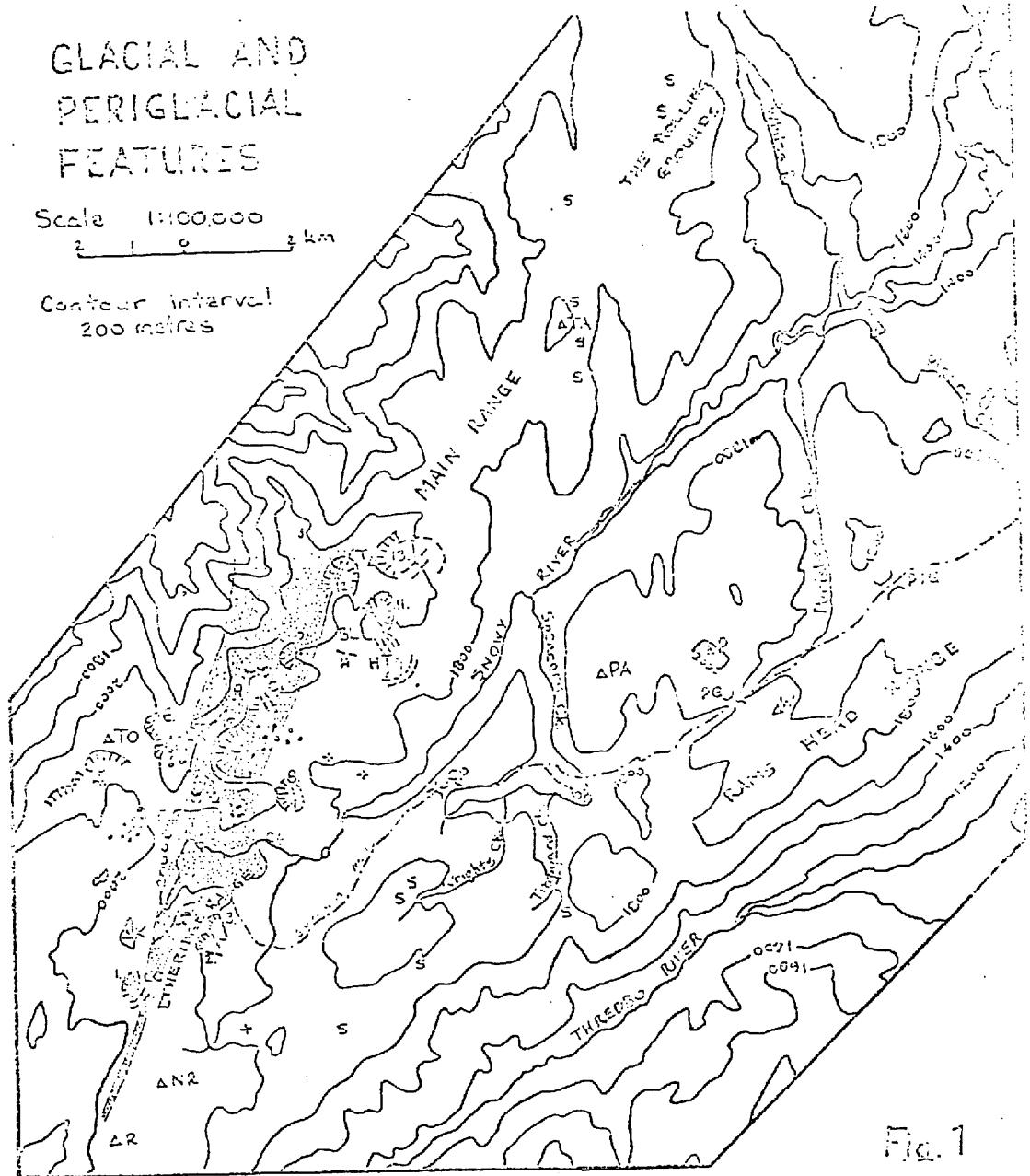


Fig. 1

KEY

4	Mountains	✱	Cols	✓	Moraine
K	Mt. Kosciusko	CP	Charlottes Pass	TD	Townsend Moraine
TO	Mt. Townsend	PG	Perisher Gap	H	Helms Moraine
T	Mt. Twynam	PIG	Pipers Gap	D?	David ?Moraine
N	Mt. Northcote				
R	Ramshead	✓	Glacial lakes	S	Snow patches
NR	North Ramshead	LC	Lake Cootcopatamba		
P	The Perisher	LA	Lake Albina	+	Erratics
PA	The Paralyser	CL	Club Lake		
TA	Mt. Tate	BL	Blue Lake	✓	Unsorted stops
G	Gungahuan	HT	Hadley Tarn		
✓	Cootcopatamba				
1.	-----	6.	Albina	11.	Blue Lake
2.	-----	7.	Harmon	12.	Upper Blue Lake
3.	-----	8.	Clarke	13.	Twynam
4.	Wilkinson	9.	Club Lake (6)	T 61	
5.	-----	10.	Carruthers		

1. Metagovernment

4月の例会のお知らせ

(東北大学 院) は昨科会自志来事と事、東北大学 院、は昨科会自志来事と事

日時: 4月1日(金) 13:30 - 17:30

場所: 都立大学 教養部 (いつもの場所とちがいます)

東横線 都立大学前 下車, 徒歩5分 (駅前の道をまっすぐに行き, 交差点をわたってそのまま坂を少しあがったところ)

大学会館(正門を入ってすぐ左側の茶色い建物) 2階・203・204室

今回は 日本地理学会
極地地形研究グループ との
共催でおこないます。

プログラム:

13:30 - 14:30 修論方針発表

渡辺 悌二(筑波大院): ハバツ標とした高山環境の推定
— 北P・立山をフィールドとして —

森永 由紀() : 立山の雪溪の隔雪について

14:30 - 15:00 宇屋以智雄(金沢大)ほか: 白山の現成階状土

15:00 - 15:30 休憩

15:30 - 16:30 吉田 栄夫(極地研): やまと山脈とドライヴァーの地形

16:30 - 17:30 藤井 理行() : 南極半島・サウス・ジョージ島の地形

* 休憩時間には, 地理学会で上京される方々のとび入りを観迎いたします。スライドをお持ち下さい(1人5~15分程度)。

* 例会終了後, 懇親会を開く予定です。

④ 連絡

本会会員・山中英二君（東北大・院）は昨年8月、本年4月22日
1月までのネパール・ヒマラヤにおける地形調査を終えて帰
国されたあと、去る2月11日から赤石山脈南部（三伏峠～
茶臼岳）の単独縦走をめざして入山されていましたが、下
山予定の2月23日を過ぎても消息がなく、第1次・第2次
捜索隊も手がかりをつかむことができませんでした。今は
奇跡的な生還を祈るのみですが、今後、4～5月に再び捜
索隊を出す予定でおります。またその際には東京近辺に在
住の方々に御協力をお願いすることがあるかと存じますので、
お心にとめておいていただきたいと思います。

（文責・小野）